

令和3年度第2回仙台市男女共同参画推進審議会 議事録

日 時 令和3年10月28日(木) 10:00~12:00

会 場 仙台市役所本庁舎 第一委員会室

出席委員 門脇佐知委員、佐藤央子委員、佐藤由紀子委員、四釜喜愛委員、
菅原正和委員、高浦康有委員、高橋正行委員、村山くみ委員、
若生彩委員

欠席委員 嵩さやか委員、立岡学委員、平渡麻子委員、大和一美委員

事務局 仙台市長、市民局長、市民局理事兼次長、市民局協働まちづくり推進部長、
男女共同参画課長、男女共同参画課企画推進係長、男女共同参画課担当者

傍 聴 なし

次 第

【開会前】

- (1) 委嘱状交付
- (2) 市長挨拶
- (3) 委員自己紹介
- (4) 会長・副会長の選出
- (5) 会長挨拶

1 開会

2 報告事項

「男女共同参画せんだいプラン2021」について

3 閉会

【開会前】

(1) 委嘱状交付

- ・市長より、出席委員9名に委嘱状が交付された。

(2) 市長挨拶

- ・この度は、多忙なところ当審議会委員を引き受けいただき、感謝申し上げます。また、本市の男女共同参画推進行政に対し、日頃よりご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
- ・ただ今、本審議会の新たな任期に係る委嘱状の交付をさせていただいた。これからの2年間種々ご審議をいただくにあたり、一言挨拶を申し上げます。
- ・本市では、平成15年に仙台市男女共同参画推進条例を施行し、翌16年には「男女共同参画せんだいプラン」を策定した。以降、第5次計画にあたる現在の計画まで、「男女平等のまち・仙台」の実現に向け、市民の皆様とともに取り組んでまいった。
- ・令和3年3月に策定した新計画では、これまでも取り組んできた企業や地域などあらゆる分野での女性の力の発揮、あるいはDVや性暴力の根絶などに加え、男性も男女共同参画の主体であるとの視点を明確化した「男性による男女共同参画」を新たに基本目標の一つとして立てたほか、多様な性のあり方を尊重しあう環境づくりの推進を施策の方向に掲げた。
- ・今後10年間の市政運営の基本方針を定める基本計画においても、年齢や性別、国籍、障害の有無などの多様性を尊重し、さらには社会を動かす活力としていくことを、まちづくりの理念にしている。
- ・男女共同参画は、そうしたまちづくりに向けた基礎を成す重要な視点である。これまでの長年にわたる取り組みの成果、震災後の10年間で積み上げてきた「防災・復興における男女共同参画」、平常時から女性がリーダーシップを発揮していくことの重要性といった教訓を継承しつつ、また、今般のコロナ禍でみられた女性をめぐる諸課題の顕在化など、時代や環境の変化も的確に捉えながら、各施策にしっかりと取り組んでいかなければならないと考えている。
- ・委員の皆様には、それぞれのご専門やご経験を生かした、幅広い視点からの活発な審議を期待申し上げますとともに、本市の男女共同参画の一層の推進のため、今後も格別のお力添えをお願い申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

(3) 委員自己紹介

- ・門脇佐知委員から五十音順に自己紹介を行った。

(公務により市長退席)

(4) 会長・副会長の選出

- ・委員の互選により、会長に高浦委員、副会長に嵩委員が選出された。

(5) 会長挨拶

- ・コロナ禍における女性への影響というのはなかなか長引きそうで困難を抱える女性への支援が強く望まれ、期待されているところ。こういったところは引き続き本審議会においても議論の対象としていきたい。また、中長期的には女性活躍の推進、女性の管理職への登用など、事業者の協力も仰ぎながら本市の課題として議論を進めていきたい。
- ・男性に関しては家事、育児への参画が求められており、社会的にはアンコンシャスバイアスなど、意識の改善に対してどう対処していくのかというところも注視していかなくてはならない。
- ・仙台市はSDGs 未来都市に選ばれており、17のゴールの中の一つ「ジェンダー平等」は本審議会に深く関わっている。また、性の多様性も新プランではより重視しており、今後の施策の方向性として制度の検討も含めて進めていくことになるかと思う。
- ・性的マイノリティの方たちが生きやすい社会のためにもぜひ仙台市としても取り組んでほしいと思っており、ぜひ、委員の皆さんからも意見をいただければと思う。

1 開会

○企画推進係長

- ・委員 13 名中、本日は 9 名が出席。

[配付資料確認]

○企画推進係長

- ・新型コロナウイルス感染症対策として、30分に数分程度休憩を兼ねた室内の換気を行う。
- ・仙台市男女共同参画推進審議会規則第5条第1項の規定に基づき、会長が議長となる。以降の進行は高浦会長にお願いしたい。

(1) 会議の公開等について

○高浦会長

- ・改選後初の審議会。気兼ねなく発言をお願いしたい。
- ・本日の審議会において、非公開とすべき案件はあるか。
(非公開案件なし・事務局)
- ・それでは本日の審議会は公開ということで良いか。
(異議なし)

(2) 議事録署名人の指定について

○高浦会長

- ・議事録署名人については、出席者の中から五十音順で2名を指名したい。今回は、門脇佐知委員と佐藤央子委員にお願いしたい。
(門脇佐知委員、佐藤央子委員 了承)

2 報告事項

「男女共同参画せんだいプラン 2021」について

○男女共同参画課長

- ・資料 1 及び机上配付資料に基づき報告

[意見・質疑応答等]

○佐藤（由）委員

- ・P26 の市役所の女性職員の係長職昇任試験受験率、比較ができないと判断ができない。男性の受験率を示してほしいのと、できれば男性の受験率を書いてほしい。

○男女共同参画課長

- ・女性 26.2%に対して、男性は 50.2%。試験は 40 歳未満と 40 歳以上の 2 区分になっていて、若い年代だと女性も受験率が高いが、一定年齢以上になると受験率が下がってきている。
- ・次回、今年度の実績報告の際には、男性の受験率も分かるような形で報告をしたい。

○佐藤（由）委員

- ・生理用品を 8 月から無料配付するという素早い対応がいいと思う。1 万パック配付するとなっているが、すでになくなって終了しているのだろうか、どれくらいの配付実績があるのか教えてほしい。
- ・「多様な性のあり方を知る」というリーフレットの中で「男女別となる制服やトイレなどに抵抗を感じる」とのコメントがあったが、性の多様性というところではトイレの問題は大きいと思う。トイレについて改善が考えられているのか聞きたい。
- ・また、制服の問題について、現在、市立中学校、高校の制服が男子はスラックス、女子はスカートというのがなくなっているのか。すでに解決しているならいいと思うが、そうでないのならば、性の多様性の問題だけでなく、固定的な男女の違いを子供に植え付けるのはどうかと思う。現状を聞きたい。

○男女共同参画課長

- ・生理用品の配付は 9 月末の時点で約 3,000 パックが配付されている。おおむね年度内くらいに配付になる見込み。
- ・多様な性の部分の制服の問題に関しては、教育委員会の所管となるが、基本的には学校ごとに制服の取り扱いを決めていると聞いている。その中で個別に、例えば、戸籍上は女性だが、スラックスをはきたいということであれば、個々に対応するというのがまず一つ、また、学校ごとの標準的な制服の示し方として、男性がこちら、女性がこちらという示し方をしているところと、オールジェンダー的な比較的自由に選択できる形になっているところがあると聞いているが、傾向としては、昨今、社会的な議論もあり、学校単位としてはより柔軟な方向に進んでいるとのことである。
- ・公共のトイレに関して言えば、トランスジェンダーの方の話を知ると、仙台市におけ

る「ひろびろトイレ」、車いすの方やオストメイトを使用する方も利用できるトイレを利用することがあるとのこと。こういったトイレは、車いす専用などというわけではなく、様々な事情を抱えた方、例えばトランスジェンダーの方、子ども連れの方など、利用した方が良い方々が使えるトイレになるので、そういったトイレが、全体の福祉施策の中では整備が進んでいるということになる。

○佐藤（由）委員

- ・制服について、学校ごとということだが、例えば教育委員会が何らかの見解を持つということはないのか。

○男女共同参画課長

- ・基本的には各学校において保護者も含めた制服の選定委員会のようなものがあると聞いている。

○佐藤（由）委員

- ・スカートかスラックスかどうかという個別の話は、制服の選定とは違う問題ではないか。女子がスカート、男子がズボンというのが、今も規範として残っているのかどうか。

○男女共同参画課長

- ・学校ごとにそれも含めてどうするかというのを取り決めている。

○高橋委員

- ・小学校の現場にいても地域の進学先の学校に男子はこういう制服、女子はこういう制服という形が示されてしまっている印象を持つ。実際は個人で選択できる学校もあるということだが、制服に違和感を持ち、自分の居住地から離れた遠い中学校に進学したという話を聞いたことがある。
- ・私の地域の学校でも制服を新調したときに、スラックス、スカートの制服の2種類が展示されて、来年からこういった制服になるんだよと子供たちに披露されたことがあった。委員の話聞いて、トランスジェンダーという視点で考えたことはなく、男子はこういう制服、女子はこういう制服と捉えた私自身の認識を改めて考えさせられた。

○高浦会長

- ・制服の問題については、教育委員会から働きかけがあるといいのかもしれない。

○佐藤（由）委員

- ・トランスジェンダーだけでなく、要するに女子がスカート、男子がズボンというものを学校で植え付けるというのが、ジェンダーの観点から言えば大きな問題だと考えるがどうか。そういったことがなければ、そもそもトランスジェンダーの方も困難を抱

えることはないと思う。

○高浦会長

・男性、女性問わず、自由に選択できるということが必要ではということですね。

○菅原委員

・各局色々なところでこの計画を推進することに関し、プランP58で庁内の推進体制の説明がある。幹事長に市民局協働まちづくり推進部長、幹事に各局主管課長となっているが、その局ごとの推進状況をこの推進本部で横串を刺していくものなのか、その点を詳しく聞きたい。

○男女共同参画課長

・仙台市の中に市長をトップとする推進本部を設置しているが、そこに対しては毎年、各局が行った施策の実施状況について、事務局である男女共同参画課が一旦各局に照会をし、取りまとめて、市民局の事業としてこうだ、経済局の方ではこうだといった形で本部会議に諮って報告する。同じものを審議会にも報告をしているところ。

○菅原委員

・各局の進捗状況について、他局からアドバイスがあるものか。報告して終わりなのか。

○男女共同参画課長

・報告がメインにはなるが、それぞれの連携があるので、事案によってはお互いにこうしていった方がいいのではと他局の局長から発言が出る状況もある。

○若生委員

・先ほど紹介のあった中で「女子のためのほっとスペース」は長町のララ・ガーデンを会場とした回に70人が集まったと聞いて、すごいなと思った。このチラシで集まったのか、口コミで広まったのか気になるが、生理用品や食料品などのおみやげも渡していたということを知って、さすがだなと感じている。

・私は防災の活動として、2017年、2019年の台風の際は荒町小学校の避難所運営に自主的に関わったが、その時に感じたのはスペースの問題。私は中央のスペースに家族をおいて、また男性、女性と分けているが、避難所によってはこういった対応を取るようにとの指導が行われていないように感じる。避難所では市職員がまずは受付をしているようだが、こういったスペースの話はなかなか進まない。避難所には必ず女性職員もいるようにしてほしい。

・また、避難所に生理用品がないことについて、よくSBL（仙台市地域防災リーダー）仲間で話をする。避難所には多様な年代の女性があり、中には生理の女性が必ずいるはずだが、それでも避難所に生理用品がない。これはトイレットペーパーがないのと同じで非常に困る。赤ちゃんがいれば、皆「赤ちゃんのオムツが必要」と思うが、

なぜ、女性の生理用品だけは自分で用意しなくてはいけないのかと、ずっと疑問を抱えている。

- ・アルバイトができない大学生が、食料費を切り詰めて生理用品を買うといった報道を見て、本当に切ない気持ちになっている。生理用品はトイレットペーパーと同じくらい必要だと思っている。
- ・東日本大震災のときに男性が生理用品を1パックずつではなく1つずつ手渡ししていたという話が体験談として残っているが、男性と女性で生理についての認識が違う。お互いの体のことについて学びが足りない、学ぶ機会がないのだと思う。女性の更年期についてはよくいわれるが、男性の更年期もある。お互いの体、健康について学ぶことで理解が深まることもあるのではないかなと思って聞いていた。

○男女共同参画課長

- ・生理用品については、各避難所に備え付けているのではなくて、集中管理、一括して管理をしている。災害時の避難の際には、まずは、一旦ご自身で水などと同じように数日分は各家庭で備蓄しているものを避難所に持ってきてもらうとして、その上で長期化してきたときにはそういった用品を補充していくことになると思う。

○若生委員

- ・保健室で生理用品を借りた場合に、それを返さなくてはならない、という話を聞くが、経済的に困っている児童生徒などが、生理用品を返さなくてはならないというのはどうなんだろう。学校の保健室には無料で与えられる生理用品を少し多めに置くことはできないのだろうかと思う。

○高浦会長

- ・災害時に限った話ではなく、平常時からの保健室の話だと思うが、高橋委員いかがか。

○高橋委員

- ・マスクなど、子供に渡したのものについては「貸したから返して」とはしていない。おそらく生理用品についても子供が使ったものについては「返して」とはならないと思う。
- ・ただ、避難所という話になってくると、例えば発電機を使うのに携行のガスを使用するが、避難訓練の時に使ったら返すように言われていたりするので、そういう状況はあるかもしれないが、学校にあるもの、子供が使うものについては、そういうことはない。

○高浦会長

- ・学校ごとに個別の事情があったりするのだろうか。教育委員会に男女共同参画を推進するような部門などないのだろうか

○男女共同参画課長

- ・教育委員会の中に男女共同参画の部門というのではない。保健室の話であれば健康教育課、学校の先生のカリキュラムの話であれば教育指導課と、案件・課題ごとに担当部門がそれぞれ対応している。

○高浦会長

- ・ぜひ部門横断的に課題解決に向けて取り組んでいただきたい。

○市民局長

- ・教育局にいた経験から申し上げますと、教育委員会と学校の関係という点で教育委員会の基本スタンスとして学校の自立性を尊重するのがあって、教育委員会の方針を強制的に落としていくということは今も変わらず、ないと思っている。ただ、先ほどあった制服についての固定的な考え、取り扱いを改めるというのは教育委員会としても何らか役割の果たし方、考え方を示すようなものがあるように思える。
- ・生理用品の取り扱いについては、先ほど委員から話があったように学校によってばらつきがあるのかもしれないので、私どもとしても教育委員会に情報提供させていただき、どうもばらつきがあるのであればそこは統一を図った方がいいので、学校の自主性を尊重しつつもそこは配慮がいるのではないかという話をさせて頂きたいと思う。
- ・避難所運営については、危機管理局が所管になるが、生理用品については流通備蓄となっていて、小売店と協定を結んでおり、いざというとき、そこから入ってくる。
- ・関係各局とは菅原委員からお話があったように本部会議などを通じて横の連携をとっているので、この場でお出しいただいたご意見についても日常的なつながりの中でしっかり各局に情報提供をしていきたいと思う。

○高浦会長

- ・ぜひ情報共有を進めていただきたい。若生委員から男女のお互いの健康について学びが足りないのではといったご意見があったが、せんだい男女共同参画財団では講座などを企画しているのではないかと思うが、何かあればぜひ。

○せんだい男女共同参画財団

- ・昨今、コロナを契機としていわゆる「生理の貧困」から女性の健康というところに光が当たってきている。初めに声を上げ始めたのは学生など比較的若い女性たちだったというところで、私どもとしてもリプロダクティブ・ヘルスという視点も大事なただけけれど、若年女性から自分たちが生きていく世界を変えていきたいという動きが生まれたことに着目している。
- ・また先ほど紹介いただいた女性管理職育成プログラムの中でも、リプロダクティブ・ヘルスの視点をマネジメントの視点の中に入れ込む、また自分自身のファウンデーション（基礎・土台）を整えるという観点からも取り入れている。

○高浦会長

- ・ぜひ、新任の門脇委員、四釜委員にもご意見を頂戴できればと思う。

○門脇委員

- ・いろいろ説明をいただいて、これだけの活動をされていて素晴らしいなと改めて感じたけれども、まだまだこのことを知らない人が多いのではないかと併せて感じたところでもあった。これをもっと広める活動ができればさらに多くの人が相談に訪れたり、機関を活用したりできるのではないかなと感じた。
- ・私自身、企業の未来プロジェクトの女性リーダー育成プログラムの一期生として参加させていただいたが、これは企業が参加して、その企業から女性リーダーとなる人を派遣する形になっているので、参加した女性は研修を受けてすごくモチベーションが上がるが、企業に戻ると思ったことが継続できずに落ち込んでしまうことがある。そこで、研修で得た意識を持ち続けるために、先ほど紹介のあった「働く女性のネットワーク」を作っていて、今では7期にわたるプログラム修了者の女性が集まって活動をしている。私もそうだが、一企業の社員として、それを推進することはすごく力が必要で、女性はみな忙しく、そこに参加したいのだけれども継続するのが難しいとか、いろいろな課題を抱えながらも少しずつやろうとしている。ネットワークの取り組みの火を消さず、また、企業や社会に貢献できるような人間になるように、そこを一緒にやれるような取り組みとか支援の仕組みがあるとよい。会社に戻っていくと、このプログラムに参加した人であっても女性の地位はまだまだ低い。会社の外で認められると会社に戻った時に、より女性の地位の向上につながっていくのではないかなと思うので、そのようなところに支援をいただけるとありがたい。

○高浦会長

- ・ぜひ男性の管理職向けの研修など、アンコンシャスバイアスを変えていくための研修なども実施していただけるといいのかなと思う。

○四釜委員

- ・いろいろとこんなにたくさんの活動をしているのだと知った。私のいる保育業界は男性1割、女性9割という男女の比率がほかの業種と違うのかもしれないが、うちは60名くらい職員がいて、もちろん子育てしながらという職員もたくさんおり、保育業界に限らないが、ライフサイクルに合わせた働き方・環境整備をどうしていくかという視点は法人の代表として大切だと感じている。「子育て中は忙しいので働く時間を短く」など、様々な要望すべてをかなえられるわけではないが、こういう要望があるというのを社員が声を出せる環境づくりが大切なんだと最近身に染みて感じている。
- ・プランP18の基本理念の「実現を目指すまちの姿」に「男女がその能力を十分に発揮できる男女平等のまち」と書いてあるが、男女平等とはどういったことかなと皆さんの意見を聞きながら考えていたときに、自分は毎日子供たちを見ているので、子供たちを見ていると、相手の意見が自分と違っていても「そうかもしれないな」と一度は

相手の意見を受け入れてくれるという姿がたくさんある。相手の意見を受け入れてくれる子にはたくさん人が寄ってくる。大人でも同じではないかと思う。相手の意見を一度は受け止めることで「あの人にだったら意見を聞いてもらいたい」、「あの人の意見を聞いてみたい」となるのではないかと思っている。「聴く」という姿勢でお互いに接していければ、人の話を聞き、相手の意見を聞きたいとなるのではないかと基本理念を見て思い、これからも進んでいけたらいいなと感じた。

○高浦会長

- ・「傾聴」の大切さという部分は男女共同参画にかかわらず様々な人間関係の中でも大事になる部分。機会があれば四釜委員には自身の経験も交え「傾聴」の大切さを伝える講師を務めていただきたいなと感じた。
- ・村山委員、佐藤央子委員からもご感想をお願いしたい。

○村山委員

- ・前期から参加させていただいているところ、今新任の委員の皆さんの話を聞いていて、新しい視点、風が入ってきていると感じた。自分にはなかった多様な意見や視点が入ってきたので、次期計画はかなりいいものができるのではないかと感じた。

○高浦会長

- ・次期プラン策定は5年後になるが、3年後をめどに中期的な評価を行うことになると思うので、それに向けてより幅広い議論をしていけたらと思う。

○佐藤（央）委員

- ・われわれ国の機関にも日々様々な相談が寄せられる。パワハラがあった、セクハラがあった、妊娠したら会社を辞めさせられた、そういった相談に国ではカバーしきれない部分の情報を仙台市はたくさん持っている。仙台市から提供いただいた資料は職員にも周知をしているところで、困りごとを抱えた方々に仙台市の情報も提供していきたいと思う。

○高浦会長

- ・進行を事務局にお返りする。

3 閉会

○企画推進係長

- ・閉会にあたり、以下の2点をご案内申し上げます。

- ① 議事録の署名について、本日の議事録原案を事務局で作成し、議事録署名人に指名された門脇佐知委員と佐藤央子委員に後日お送りする。内容をご確認の上、ご署名いただきたい。署名をいただいた後、市政情報センター及び仙台市ホームページで公開する。

- ② 次回の審議会開催については、来年2月頃の開催を予定している。
- ・本日の審議会はこれにて終了とさせていただきます。

議事録署名委員の署名

仙台市男女共同参画推進審議会委員

門脇 佐知

仙台市男女共同参画推進審議会委員

佐藤 央子